

第2章 「徳島県農工商教育活性化方針」に基づく取組の成果

農業教育，工業教育，商業教育のそれぞれの活性化に向けて，6つの方策のもとで取り組んできた主な成果は次のとおりである。

1 農業教育

(1) エコロジカル・アグリハイスクールの推進

- 各学校は，環境保全型農業，環境学習，*エシカル消費など，持続可能な社会を目指す学習を幅広く農業教育として実践できた。
- 絶滅危惧種の保護活動や棚田での農業体験活動など，地域の特性を生かした環境教育が継続的に行われ，地域環境の保全に貢献できた。

(2) 勢いのある強い農業教育の推進

- 城西高校を中心校として，学校農業クラブ活動の各競技会等の運営を各学校が担う体制が定着し，活動の活発化が図られた。
- 校内販売所や地域の販売所等を活用した農産物の販売が盛んに行われ，農場生産収入の増額につながった。また，各校で開発されたオリジナル商品の定着が図られた。

(3) 地域貢献，地域連携及び地域に開かれた学校づくりの推進

- 県の各機関や大学，企業，団体等と積極的に連携して，各学校が特色ある活動を展開し，地域の中で活動することによって，地域の活性化に貢献できた。
- 阿波藍や人形浄瑠璃，養蚕に関する取組など，伝統文化の継承が活発に行われ，地域との結びつきが強固となり，地域の教育資源を活用した学習が進展した。

(4) 経営能力，倫理観を持ったスペシャリストの育成

- *GAPの推進や6次産業化を目指した商品開発や販売，PR活動などの学習を通して，信頼され儲かる農業経営の能力を向上させることができた。
- 県内農家や農業法人，地元企業でのインターンシップや就業体験は，コミュニケーション能力の向上など生徒への教育効果も大きく，農業高校のアピールにもつながった。
- 日本農業技術検定，*FFJ検定や各種発表会・競技会のほか，各学科の特色を生かした資格取得に挑戦し，アグリマイスターの認定を受ける生徒を育成することができた。

(5) 国際的視野を備えた担い手の育成

- 海外マーケティング事業や地域の国際交流プロジェクト，海外林業技術研修などに代表生徒が参加し，国際理解を深め，郷土を再認識できた。また，発表会を通じて学習成果を共有し，広めることができた。
- 海外からの学生を迎えて交流活動を行い，農業学習や日本文化を理解してもらう情報発信ができた。

(6) 自然災害による被害の軽減に努める人材の育成

- 防災食や消臭抗菌スプレー製品の開発など，専門性を生かし，災害時に活用できる研究が進められた。
- 防災士の資格取得や地域での防災活動への参加など，地域防災を担う人材の育成が進んだ。
- 耕作放棄地の活用や棚田の保全，森林の整備など，自然災害の防止につながる学習は，生き抜くための知識技術の習得であり，防災意識の向上にもつながった。

2 工業教育

(1) 工業科ネットワークの強化と機能分担

- 工業学会事務局を中心に工業科設置校が連携して、各種コンテスト等の事務局を輪番制にするなど役割分担を明確にし、機能性を高めたことで、工業科ネットワークの強化につながった。
- 工業科設置校の特色ある取組などを積極的に情報発信することにより、工業学会HPへのアクセス数が計画実施前の4.5倍と大幅な増加につながった。

(2) 実践的な*キャリア教育の推進

- 地元企業、徳島県中小企業団体中央会、ロータリークラブ、NPO法人阿南竹林再生会議、地域の自主防災組織との連携が構築でき、短期インターンシップについては、毎年2年生全員が参加し、60%以上の生徒が専門職種で体験できるなど連携事業所数も増加した。
- 資格取得において、第一種電気工事士試験や第三種電気主任技術者試験では目標を少し下回っているが、第二種電気工事士試験ではほぼ目標に達することができた。

(3) グローバル化に対応した教育の推進

- 海外高校生との交流を通して、技術力と語学力の向上が図られた。また、パテントコンテストで受賞するなど、課題解決能力の向上につながった。
- 発表会等の実施回数の増加により主体性やプレゼンテーション能力の向上が図られた。

(4) 大学・公的教育機関・企業等との連携強化による工業教育の充実

- 専門分野の高度な知識や技術を習得する機会を積極的に設けることで、研究活動への興味・関心を高め、生徒の主体性を引き出すことにつながった。
- 地元建築士会と連携し、専門家から技術的な支援を直接受け、建築甲子園では建築士会会長賞、「住みたい家」コンクールでは優良賞を受賞した。

(5) 教員の高度な専門性の確立と指導力の向上

- ものづくりコンテストや国家技能検定の取組において、高度熟練技術者を招聘した技術指導を実施することで、教員の指導力向上につながった。
- コース長等が各種事業を企画・実施することで、中核教員としてのコーディネート力の向上につながった。

(6) 6次産業化の取組による地域連携の推進

- 「阿波藍」に関するものづくりの取組や「ゆこう」を使った商品開発の取組など、農林水産業を学ぶ学科との積極的な連携を通して、産業構造の変化についての認識を深めた。
- 徳島県立工業技術センターと連携するなど行政機関と協力し、県産材の杉を使用した製品の研究開発に携わることで、地域資源を活用したものづくりの取組の充実が図られた。

3 商業教育

(1) 中心校の充実と商業科ネットワークの推進

- 徳島商業高校を中心として、各種競技会等を開催するなかで、生徒の知識・技術の向上が図られ、全県的な商業教育が大きく発展した。

(2) 実践的なキャリア教育の推進

- 学校、地元産業界等との連携による各校ならではのグランドデザインの作成・指導が展開され、地域の発展に資する実践的なキャリア教育が推進された。
- 外部講師の積極的な活用により、最先端の知識・技術が身に付くとともに、実践的なキャリア教育が推進された。

(3) グローバル化に対応した教育の推進

- 姉妹校等との国際交流を通じて、外国人と触れ合い、異文化の理解が深まり、グローバルな人材の育成が図られた。
- 英語スピーチコンテストへの参加により、外国語を通じた望ましいコミュニケーション能力と積極性を身に付け、各種国際会合等で英語スピーチを行い、国内外から高い評価を得た。

(4) 産学官連携・高大連携による創造的教育の推進

- 企業を訪問したり、市場調査をしたりすることで、実際のビジネスを知ることができた。
- 高大連携による発展的・専門的な学習により、生徒のビジネスに関する興味・関心が高まるとともに探究活動の進化が図られ、創造的教育が推進された。

(5) 資格取得や実践的教育によるキャリアアップの推進

- 平成27年度には、全商3種目1級取得者が過去最高の126名となった。また、日商簿記検定、基本情報技術者試験などの高度資格合格者も出ている。
- 各競技会で、専門的知識・技術の向上が図られ、4年間でワープロ、珠算電卓、商業研究の各種競技会において、全国大会上位に入賞をするなどの成果をあげた。

(6) 6次産業化の取組による地域連携の推進

- 各種イベントの参加を通して、地域の方々や地元企業の方との交流を深め、6次産業化の取組を知っていただくとともに、地域経済の理解や地域産業の振興に貢献する意識が高まった。
- 生産されたみまから唐辛子を使い、地元企業と連携して商品開発に取り組み、「みまからさっくりーふ」を開発した。その他に、「みまからぎゅうっと弁当」、「みまからあげパン」の2つの商品を、徳島ヴォルティスの試合や消費者まつり等のイベントで販売することができた。

以上のような、徳島県農工商教育活性化方針に基づく、本県農工商設置高校による特色ある取組によって、農業教育、工業教育、商業教育のそれぞれの活性化が図られてきた。これまでの取組の成果を踏まえ、今後も地域産業を担う人材を育成するため、社会や産業界の変化に応じた実践的な教育をより一層推進していく必要がある。

4 農工商が連携した教育

- 6次産業化プロデュース事業（平成27年度～）
 - ・徳島県農工商教育活性化方針に基づき、6次産業化をプロデュースする人材を育成するため、学校間連携・生徒間協働活動により、地域資源をテーマに生産・商品開発・加工・販売の一連の流れについて、実践的な取組を行う事業
 - 【県央】テーマ：阿波藍
連携校：城西高校（農）、徳島科学技術高校（工）、徳島商業高校（商）
成果物：藍の洋菓子・和菓子、藍のぎょうざ、藍の行灯
 - 【県南】テーマ：ゆこう
連携校：小松島西高校勝浦校（農）、阿南光高校（農・工）、富岡東高校（商）
成果物：ゆこうマーマレード、ゆこうケーキ、ゆこうどら焼き
 - 【県西】テーマ：アロマオイル
連携校：池田高校三好校（農）、池田高校辻校（商）、つるぎ高校（工・商）
成果物：アロマキャンドル、アロマオイルの香る写真立て、アロマ石けん、アロマスプレー

- 農業・工業・商業が連携した教育に関連する学科再編・再編統合（平成24年度～）
 - ・吉野川高校（平成24年度開校）
「食ビジネス科」を新しく設置し、「農商連携」による地域の食材を活かした商品開発や店舗経営についての教育などを展開
 - ・つるぎ高校（平成26年度開校）
「地域ビジネス科」を新しく設置し、「商工連携」による地域の特産品「みまから」の6次産業化を一層進める教育などを展開
 - ・那賀高校「森林クリエイト科」（平成28年度設置）
森林資源を活かした実践的な森林施業学習と6次産業化に対応した教育を展開
 - ・城西高校「アグリビジネス科」（平成29年度設置）
生産・商品開発・加工・販売の一連の流れを総合的に学習できる6次産業化に対応した教育を展開
 - ・阿南光高校（平成30年度開校）
「産業創造科（総合学科）」を新しく設置し、「工業科」との併設による専門教育を行う高校として開校、「農工商が一体化した特色ある教育」や「ものづくりを重視した教育」を展開

※県、徳島大学、県教育委員会との連携協定に基づき、新野キャンパスを徳島大学のサテライトキャンパスと位置付け、高大連携教育を推進（大学教員1名常駐）

 - ・城西高校神山校「地域創生類」（平成31年度設置）
地域産業の振興や地域に貢献できる人材育成を目指し、地域に根ざした造園教育や持続可能な環境保全型農業教育を展開

- 徳島大学生物資源産業学部（平成28年度～）へのキャリアパスの確立
 - ・高校からの推薦入試Ⅰ
対象：農業・工業・商業・水産・総合学科
募集人員：8人（一般枠：4人・地域枠：4人）
合格者数：H28年度 5人、H29年度 5人、H30年度 5人、H31年度 4人、R2年度 3人
 - ・農業大学校（専修学校）から編入可能

県教育委員会では、これまで、前方針に基づき、農工商教育において経済社会の様々な情勢の変化に対応した専門的職業人として必要とされる力を身に付け、地域産業の発展に貢献できる人材の育成をするために、学科再編や再編統合、そして6次産業化教育の推進など様々な施策を展開してきた。学科再編では、平成28年度に林業関係学科である那賀高校森林クリエイト科、平成29年度に6次産業化専門学科として城西高校アグリビジネス科を新設、再編統合では、平成30年度に農工商が一体化した専門教育を行う高校として阿南光高校を開校し、農工商教育の活性化を図ってきた。また、6次産業化プロデュース事業では、県下3地域において、農工商教育を行っている学校が学校間連携・生徒間協働活動を通して、各校との連携ノウハウの蓄積と学校間連携による6次産業化教育の浸透が図られた。

今後も、従来の専門教育の枠にとらわれずに、徳島ならではの地方創生に向けて6次産業化教育をさらに推進し、地域の産業界、大学の研究機関、地域の他の専門高校との連携強化等を積極的に進め、グローバル化の進展や技術革新、Society5.0に対応できる、持続可能な社会づくりの担い手になる人材を育成する必要がある。